「日本の金工師とジュエリー」

—刀剣金工師から始まった日本のジュエリー—

写真提供：京都清水三年坂美術館

Copyright © 2015-2017 SHINKO STUDIO. All Rights Reserved.

日本のジュエリーの歴史を知る、日本の仕事の美しさと奥深さを知る

- 「ジュエリー」と聞くと、「西洋」から来たもの？そういう風に思っていませんか？
- 私も以前は、ずっとそう思ってジュエリーを扱ってきました。しかし、実は日本のジュエリーの発展の歴史は独特でした。日本のジュエリーは、明治維新以後の「廃刀令」によって職にあぶれた、刀剣金工師（とうけんきんこうし）が仕事を転換して基礎を作ったものだったのです。
- 江戸時代までは、大名がパトロンとなり、各藩で抱えていた優秀な金工師たち。刀の鍔（つば）などの高度で精緻な技術は、明治維新以降の日本の重要な輸出工芸品にもなり、アールヌーボーにも多大な影響を与えています。
- その流れを汲んで、さらに新しい今の技術も取り込んで仕事をしてきたのが、今シンコーストゥディオのジュエリーを造っている職人達です。
  この職人達の仕事を知った時、私は西洋ブランドのジュエリーにも決して負けることの無い、上質感と背景にある歴史の重みを感じずにはいられませんでした。そして、それに新しい「デザイン」という力が加わり、メッセージを発信すれば、きっと身に着ける人、一人ひとりに誇りや、勇気を与えられるだろうと確信しました。
- そんなことが、私がジュエリーを造っている原点であり、だからこそ、少しずつ日本の金工とジュエリーの歴史を話していこうと思っています。明治維新前後の金工師の仕事は、まさに「超絶技巧」。さらに自由な発想で、ウィットにとんだ洒落満載。その仕事はまさにアーティスト。
- 深いけど、難しくなく。美しいけれど楽しく、話して行きたいと思います。
- 今回は、特別、京都清水三年坂美術館館長の村田理如様の協力を得て、画像を多くお借りしています。
- http://www.sannenzaka-museum.co.jp/

Copyright © 2015-2017 SHINKO STUDIO. All Rights Reserved.

SHINKO STUDIO

刀の金工師＋飾り職人が手がけた日本のジュエリー

- 西洋からジュエリーというものが入って来たのは明治以降。しかし、江戸時代には多くの刀剣を装飾する「金工師」という卓越した技術を持った職人が存在していました。
- 彼らは、各藩の大名の保護の下で藩ごとにその技術を切磋拓磨していました。
- 一方で、簪（かんざし）や根付（ねつけ）などを造る「飾り職人」という職人文化も江戸時代に花開き隆盛を極めていました。

↓

明治9年（1876） 廃刀令の発布

優秀な刀剣金工師の仕事が無くなり。仕事を求めて彫金工芸品又はジュエリー製作の道へ

Copyright © 2015-2017 SHINKO STUDIO. All Rights Reserved.

SHINKO STUDIO

明治期に海外に認められた日本の金工技巧とアーティスト

正阿弥　勝義(しょうあみかつよし)

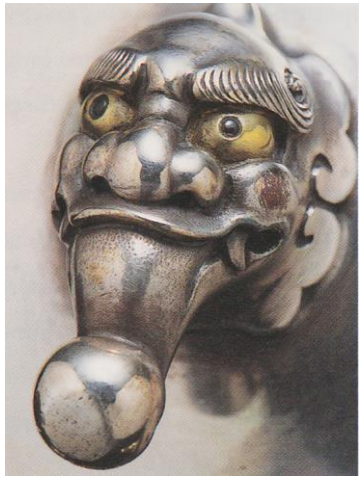
正阿弥勝義は天保3年（1832年）津山藩のお抱え金工師・中川勝継の一家に生まれ、19歳の時金公界の名門岡山正阿弥家の9代を継ぎ刀装具制作に力を発揮する。しかし、40歳代で廃刀令を迎え、以後は花瓶などの室内装飾品や手廻りの小道具を製作し彫金作家として数多くの作品を残す。その作品は、技術、アーティスト性両面で、日本では勿論、海外の博覧会などでも受賞をし、高く評価されている。

Copyright © 2015-2017 SHINKO STUDIO. All Rights Reserved.

SHINKO STUDIO

群鶏図香炉（ぐんけいずこうろ）　正阿弥　勝義

この作品は、銀地の本体に金、銀、赤銅（しゃくどう）、素銅（すあか）などの日本独自の色地金を使い、象嵌（ぞうがん）によって様々な鳥の姿を表現しています。ドーム状の火屋（ほや）には、小菊を高肉彫（たかにくぼり）で表し、つまみの雄鶏は丸彫りで立体的に表しています。あらゆる彫金技法を駆使して作られた、正阿弥勝義の代表作の一つ。



清水三年坂美術館提供

Copyright © 2015-2017 SHINKO STUDIO. All Rights Reserved.

SHINKO STUDIO

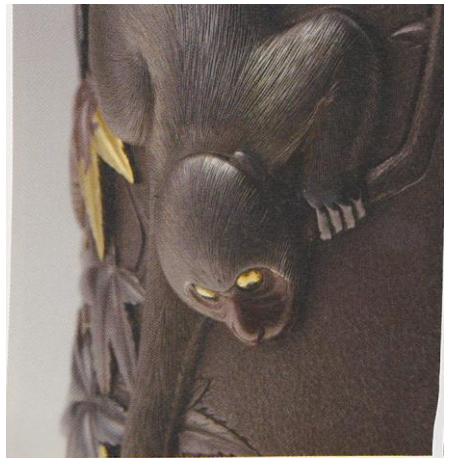
群鶏図香炉（ぐんけいずこうろ）　正阿弥　勝義

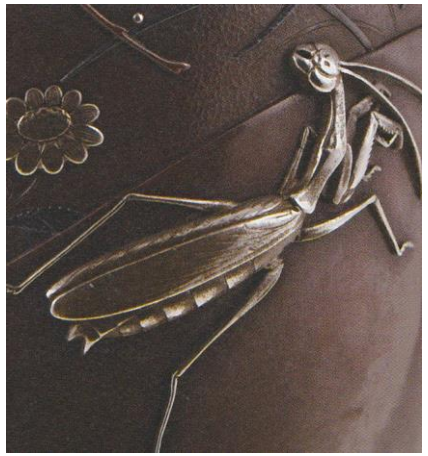
清水三年坂美術館提供

Copyright © 2015-2017 SHINKO STUDIO. All Rights Reserved.

SHINKO STUDIO

猿に蟷螂図花瓶（さるにかまきりずかびん）正阿弥　勝義





清水三年坂美術館提供

菊図指輪　　秋草に飛蝗（ばった）図指輪

Copyright © 2015-2017 SHINKO STUDIO. All Rights Reserved.

SHINKO STUDIO

明治期に海外に認められた日本の金工技巧とアーティスト

加納夏雄(かとう　なつお)

1828～1898年。幕末・明治の彫金家。京都*金工*の名門である*大月派*、*金工*池田孝寿に入門，また中島来章に絵を学んだ。江戸に出て刀装具などに写生風の彫法を用いて活躍。万国博覧会や国内の勧業博覧会、美術展で常に上位入賞をはたし、1894年（明治27年）には東京美術学校（現在の東京藝術大学）教授になるとともに、第１回帝室技芸員になった。明治の新貨幣の原型制作も担当した。

Copyright © 2015-2017 SHINKO STUDIO. All Rights Reserved.

SHINKO STUDIO

牡丹に蝶図鐔　（ぼたんのちょうずつば）　加納　夏雄

日月図目貫

清水三年坂美術館提供

一圓銀貨（明治3年）

二十圓金貨（明治13年）

Copyright © 2015-2017 SHINKO STUDIO. All Rights Reserved.

芍薬図懐中時計　加納　夏雄

日月図目貫

清水三年坂美術館提供

日月図目貫

蜘蛛図鏡蓋

Copyright © 2015-2017 SHINKO STUDIO. All Rights Reserved.

明治期に海外に認められた日本の金工技巧とアーティスト

海野勝珉(うんの　しょうみん)

1844～1915年。叔父にあたり水戸藩士だった初代・海野美盛に金属彫刻を学ぶ。

明治初年上京、明治9年（1876年）駒込千駄木町で開業した。明治10年（1877年）第1回内国勧業博覧会、明治14年（1881年）第2回内国勧業博覧会で褒状。明治23年（1890年）、第3回同博覧会で「蘭陵王」で妙技一等賞。翌年東京美術学校助教授となり、先達で同校教授だった加納夏雄に師事し更なる研鑽を積む。

Copyright © 2015-2017 SHINKO STUDIO. All Rights Reserved.

SHINKO STUDIO

海野勝珉(うんの　しょうみん)

花鳥図対花瓶

清水三年坂美術館提供

山姥金時図花瓶

清水三年坂美術館提供

閻魔図さぐり金具

Copyright © 2015-2017 SHINKO STUDIO. All Rights Reserved.

海野勝珉(うんの　しょうみん)

牡丹に蝶図蓋物

清水三年坂美術館提供

蛸烏賊図目貫

Copyright © 2015-2017 SHINKO STUDIO. All Rights Reserved.

打ち出し

Copyright © 2015-2017 SHINKO STUDIO. All Rights Reserved.

SHINKO STUDIO

Copyright © 2015-2017 SHINKO STUDIO. All Rights Reserved.

猿侯図目貫__短冊銘長常__花押
一宮長常（いちのみや　ながつね）江戸時代__18ｃ

Copyright © 2015-2017 SHINKO STUDIO. All Rights Reserved.

画像提供:東京国立博物館

Copyright © 2015-2017 SHINKO STUDIO. All Rights Reserved.

画像提供:東京国立博物館

目貫（目抜き）の数々

海野盛寿 うんの−もりとし　（Kotobank.jp デジタル版日本人名大辞典参照）
1834－1896　明治時代の彫金家。天保(てんぽう)　5年生まれ。初代海野美盛(よしもり)の門人。
明治になって上京し,玉川美久(よしひさ)にもまなぶ。

目貫　海野　盛寿（うんの　もりとし）

目貫　安藤　薩雄（あんどう　さつお）

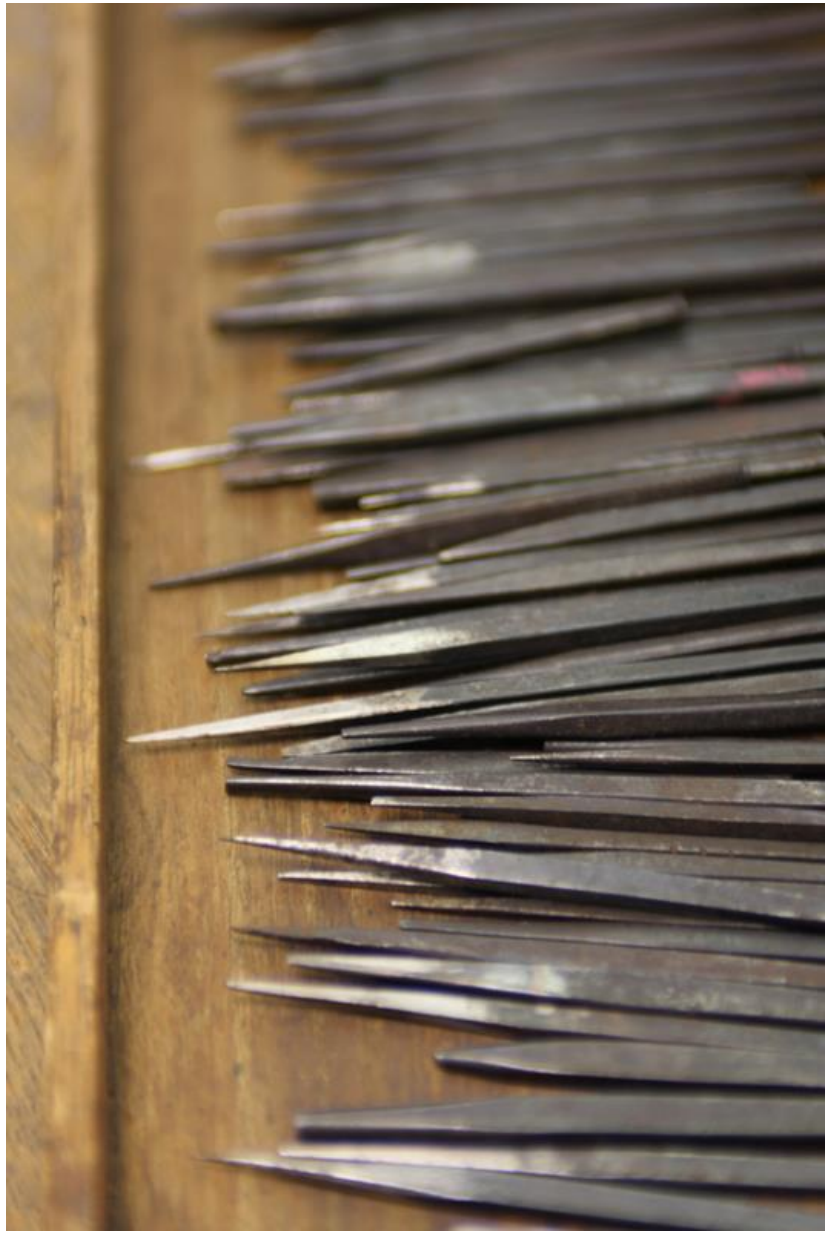
安藤　薩雄 あんどうさつお
装剣金工師。東京芸大で指導後、戦後ミキモトに入社。

Copyright © 2015-2017 SHINKO STUDIO. All Rights Reserved.

SHINKO STUDIO

Copyright © 2015-2017 SHINKO STUDIO. All Rights Reserved.

SHINKO STUDIO



Copyright © 2015-2017 SHINKO STUDIO. All Rights Reserved.
COPYRIGHT © 2015HINKO STUDIO. ALL RIGHTS RESERVED.

和彫り

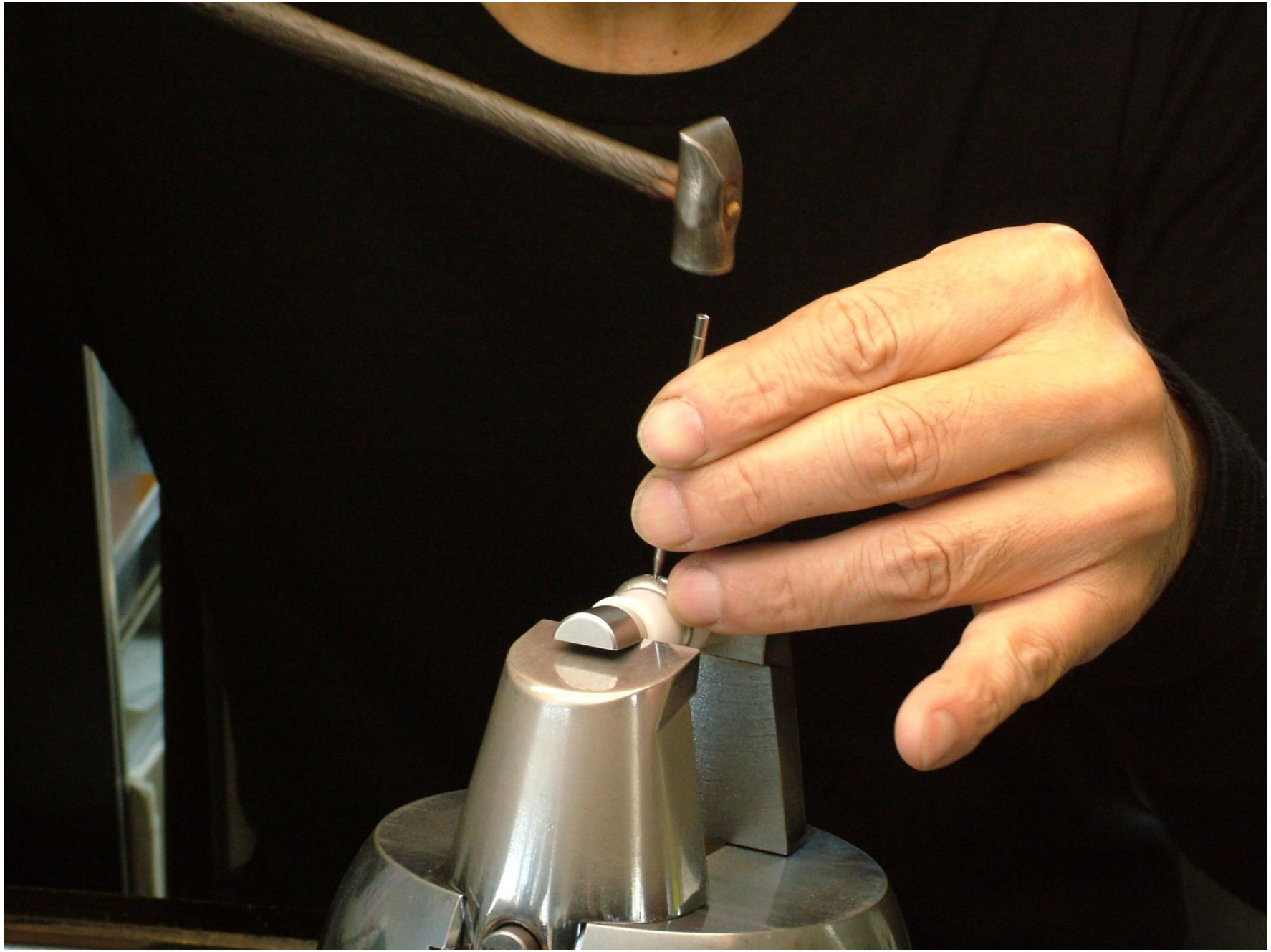
Copyright © 2015-2017 SHINKO STUDIO. All Rights Reserved.

牡丹文煙管・牡丹文矢立　江戸時代__(矢立)19c

画像提供:東京国立博物館

かんざし　螢図平打簪　図は酒井抱一　江戸時代

Copyright © 2015-2017 SHINKO STUDIO. All Rights Reserved.



SHINKO STUDIO

Copyright © 2015-2017 SHINKO STUDIO. All Rights Reserved.

Copyright © 2015-2017 SHINKO STUDIO. All Rights Reserved.

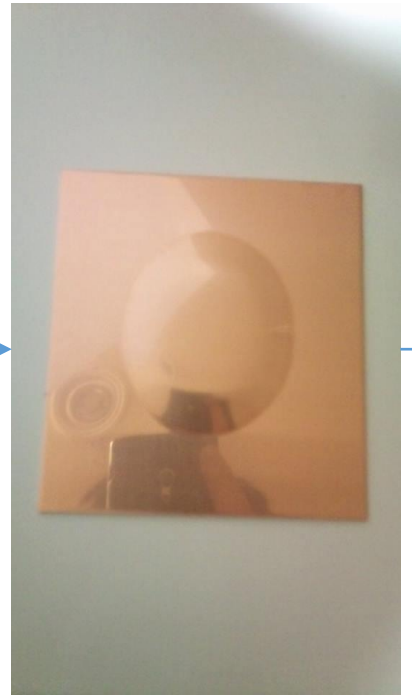
SHINKO STUDIO

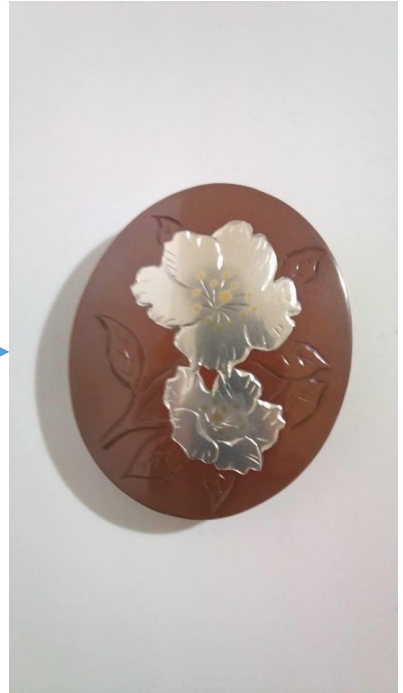
SHINKO STUDIO

Copyright © 2015-2017 SHINKO STUDIO. All Rights Reserved.

象嵌ぞうがん

Copyright © 2015-2017 SHINKO STUDIO. All Rights Reserved.





象嵌ぞうがん

金工作家　山賀　三四郎　作品

Copyright © 2015-2017 SHINKO STUDIO. All Rights Reserved.

SHINKO STUDIO

花文象嵌香盒

象嵌　金工作家　山賀　三四郎　作

Copyright © 2015-2017 SHINKO STUDIO. All Rights Reserved.

SHINKO STUDIO

七宝

Copyright © 2015-2017 SHINKO STUDIO. All Rights Reserved.

Copyright © 2015-2017 SHINKO STUDIO. All Rights Reserved.

自在

Copyright © 2015-2017 SHINKO STUDIO. All Rights Reserved.

画像提供:東京国立博物館

Copyright © 2015-2017 SHINKO STUDIO. All Rights Reserved.

Copyright © 2015-2017 SHINKO STUDIO. All Rights Reserved.

画像提供:東京国立博物館

画像提供:東京国立博物館

Copyright © 2015-2017 SHINKO STUDIO. All Rights Reserved.

扇梅鳥籠飾り金銀珊瑚ぴらぴら簪
澤乃井櫛かんざし美術館蔵

閉じる

http://www.artimpression.co.jp/phot-up/phot-05-02.html

Copyright © 2015-2017 SHINKO STUDIO. All Rights Reserved.

ジュエリー製作に生かされる日本の技法

立体造形

鏨（たがね）と小槌を使って形作っていく打ち出しの技法があったために、すぐに高度なジュエリーを造ることができる下地があった

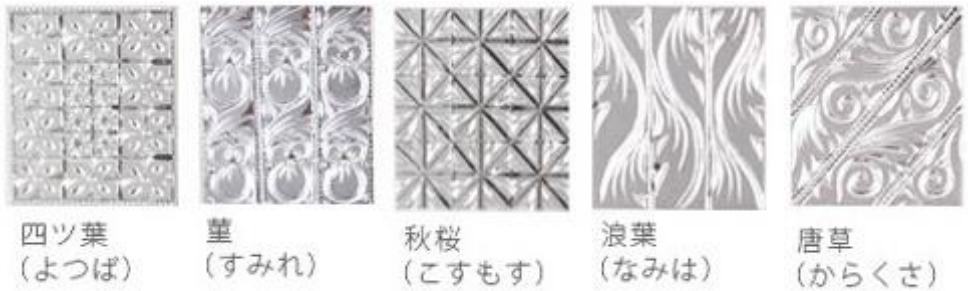
石留め（彫留め）

彫りの職人が鏨と小槌を使って石留め
・和彫り

西洋の物まねを越えたジュエリー製作技術が出来上がっていく

Copyright © 2015-2017 SHINKO STUDIO. All Rights Reserved.

SHINKO STUDIO



ダイヤの石留め
穴を開け、周りを鏨で掘り込んで石をとめる。

Copyright © 2015-2017 SHINKO STUDIO. All Rights Reserved.

SHINKO STUDIO

これからの日本のジュエリー　伝統の技法とデザイン

日本人のアイデンティティを感じられる、
誇りを持てるジュエリーを。

日々の生活に自分と一緒に、人生を歩
んでくれるジュエリーを。

Copyright © 2015-2017 SHINKO STUDIO. All Rights Reserved.

SHINKO STUDIO

参考資料

清水三年坂美術館ホームページ：http://www.sannenzaka-museum.co.jp/

「緑青ー幕末・明治の金工　清水三年坂美術館コレクション」 村田　理如　アリア書房

「日本装身具史ージュエリーとアクセサリーの歩み」露木　宏　美術出版社

「ジュエリーの歩み100年ー近代日本の装身具一八五〇-一九五〇」関 昭郎、露木宏、飯野一朗、松月清郎
美術出版社

Copyright © 2015-2017 SHINKO STUDIO. All Rights Reserved.